

会議議事録(抄)

会議名	2022年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 IoT+AI科 教育課程編成委員会
開催日時	2022年11月25日(金)15時40分~17時00分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 1101 教室
参加者	<p><外部委員:3名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>渡邊 和彦 (ITbook テクノロジー株式会社)</p> <p>高堂 博司</p> <p>田中 正吾 (ワンフットシーバス)</p> <p><内部委員></p> <p>生形 可奈子 (専門学校東京テクニカルカレッジ IoT+AI 科科長)</p>
	<p><系別分科会> (第二部)</p> <p>1.議長挨拶 生形より挨拶</p> <p>2.1年生活動内容報告 出席状況、学生の傾向、アウトプット活動、制作物紹介</p> <p>3.意見交換 テーマ:次年度検討事項、就職活動、ダブルメジャー</p>
討議内容	<p>1. <u>次年度1年生の使用デバイスについて</u></p> <p>【生形】 ラズパイの供給が安定せず、昨年よりも入手しづらい状況が続いている。新入生には一人一台デバイスを所有させたいので、入手できない場合は Arduino や M5Stack など代替することも検討しているが、ご意見を伺いたい。</p> <p>【田中】 どこかで Linux を触る機会は必要なので、ラズパイが入手できると良いが、それまでの間は、入手性を考えると M5Stack もアリ。必ずしも Grove を使わないといけないわけではなく、ブレッドボードにつなぐことなどもできるので、電子回路の基礎の授業にも対応はできる。 他には obniz でも良い気はするが、最初に触るなら Arduino などのシンプルな方が良さそう。</p> <p>【高堂】 パソコンに IO をつなげて、直接いじる形でも良いかもしれない。</p> <p>【渡邊】 年明けにはラズパイに限らず、電子部品全般入手しやすくなりそうだとされている。一番入手性が悪かった時期のピークは越えた印象。</p> <p>【高堂】 カード決済になるが、アメリカからだったら比較的購入しやすい。中国は偽物が多い。</p> <p>2. <u>コンテストについて</u></p> <p>【生形】 1年生の制作物はヒーローズ・リーグに応募したが、ハードルが高かったかもしれない。</p> <p>【田中】 みんなのラズパイコンテストとか、スイッチサイエンスがやっている M5Stack コンテストとか、そういったもののほうがハードルは低いかもしれない。 過去に別のコンテストに出した作品の応募を許可しているコンテストもあるので、ProtoPediaのをブラッシュアップしつつ、そういったところにも応募してみてもは。</p>

3.就職活動について

【生形】

新卒の就活について詳しくないので、企業側の視点で教えていただきたい。たとえば、いまだに履歴書は手書きするのだろうか？

【一同】

しなくて良い。

【高堂】

そういう昔の精神論を大事にする会社もあるにはあるが、今時のIT企業ではあまりないと思う。

【渡邊】

学生の何割かは手書きで書いてくる人もいるが、学校に指示されているだけだと思って見ている。

【生形】

ポートフォリオやアウトプット活動を記載するために履歴書のフォーマットは自作させたかったのですが、まずは一安心。その際の懸念事項として、転職活動でもよくあることだが、URLを載せておいても見てもらえないことが多い。どうすれば見てもらえるか。

【高堂】

それは、担当者は印刷されたものを渡されて見ていると思う。

【田中】

すぐに取り出して見せられるように、紙に印刷したものも持参すると良いと思う。

【渡邊】

前に面接に来た学生が、質問すると、「聞かれると思ってました」と言ってずっと資料を出してきて、この子は優秀だなと思って採用を決めたことがある。

【田中】

究極的には実機を持っていくのが一番強いかもしれない。できるかどうかはキャラによると思うけれど。ポートフォリオをきっちり作り込むタイプだったり、とにかくソースコード見てくれというタイプだったり、キャラに合わせたプレゼンの仕方があるから。

【高堂】

以前勤めていた企業では、多様性のために真面目じゃない学生も採用していたが、一見不真面目でもすごく原動力があったりするので、学生の特性に合わせたアピールができるような練習をしておくと思う。採用の際に一番重要視するのは、自分の意志があるかということなので、どういう考えでこれを作ったのか、といったことがしっかり説明できてほしい。そこが明確になっていけば、失敗していても構わない。

【田中】

失敗談のほうが聞いていて楽しいし、トライアンドエラーを繰り返す力があるってことが大事。

【渡邊】

あとは全体を俯瞰して見ることができている人は欲しい。多少知識の偏りはあってもいいけど、1つのプロジェクトを通して、全体の構成が思い浮かぶ状態にはなっていてほしい。

4.ダブルメジャーについて

【生形】

前回、カリキュラムは需要から逆算して作るべきであって、ありもののカリキュラムを掛け合わせて新しいパッケージができたという安易な発想はどうかと苦言をいただき、個人的にはその通りだと思うが…どうしてもやりたいようなので、どうすれば実現できるのか、建設的なご意見を賜りたい。

【高堂】

大学との差別化は知識だけで頭でっかちにならず、実際にものづくりをして実践できるというところだと思うので、建築でもデザインでも、新しい組織の中に入って新しいものを生み出す経験を積むことができれば良いと思う。昔からやってる方法の非効率性などに気づいて、自らその違和感を解決しようとする、とか。

【渡邊】

明確な目的意識があって、この2つを掛け合わせたいと自分で選べる人であれば全然良いが、そういう学生がどれだけののかは疑問。それを見つけるために色々な人と交流する機会があるのは良いことだと思うので、追加の2年はもっと短い期間で、興味を持てる場所を見つけるフェーズがあっても良いのかなと思う。

【田中】

たとえば、最初の2年でIoTとAIを学び、追加の2年は、まず3年目に他業界の知識をダイジェスト版で学んで、4年目はひたすら課題解決に費やすような構成はどうか。

2年ずつ並列に学ぶ形だと、就職のときに面接官に何がしたいのか伝わらないと思うので、4年間の学びの内訳に説得力を持たせる必要があると思う。

【渡邊】

2+2というよりは、4年制って新しい枠組みで、企業に対しても学生に対しても、納得してもらえる仕組みを新しく作る考えたほうが良いかなと。

【田中】

企業例の記載があるが、ここまでピンポイントで狙えるかという、ちょっと難しいかなという印象。

+2の知識で勝負するというよりは、最後の1年間でプロジェクトをまわして、プロジェクトマネジメント力とか、アウトプットできる胆力であるとかを身に付けて勝負するほうが良いかもしれない。